

平成27年6月4日

平成27年度全国メディカルコントロール協議会連絡会(第1回)

基調講演

これからの全国メディカルコントロール協議会連絡会

～ MC体制に関わる団体の課題認識と取組 ～

全国MC協議会連絡会

会長 行岡哲男

全国メディカルコントロール協議会連絡会「開催要綱」

平成19年～平成27年3月：旧版

病院前救護における、応急処置等の質を保障する、
消防機関と救急医療機関等とのMC協議会の設置が進められてきた。

活動の実態がほとんど見られないものがあるなど、地域差が大きい。

関係機関と協力・連携し、MC協議会の質を全国的に底上げすることが
救急業務の高度化のために必要である。

全国メディカルコントロール協議会連絡会を開催する。

全国メディカルコントロール協議会連絡会「開催要綱」

平成27年4月：現行版

MC協議会の目的：応急処置等の質を医学的観点から保障すること

MC協議会の機能は、更なる充実・強化が求められており、
今後、救急医療提供体制を構築する場としての活用も期待されている

各地域におけるMC体制やMC協議会の取組は様々である

消防庁および厚生労働省は、関係機関がMC体制に関する課題を整理し、
自己評価および他MC協議会から学ぶことができるよう
情報共有及び提言の場を設ける

救急医療に関係する学会、団体、消防機関、医療機関等により構成される
全国MC協議会連絡会を開催する。

MC協議会が、救急救命士・救急隊員らが行う
応急処置等の質を保障する役割を担うという認識

2つの要綱で同一

平成19年～平成27年3月：旧版

平成27年4月：現行版

全国メディカルコントロール協議会連絡会「開催要綱」

救急業務の高度化のために必要

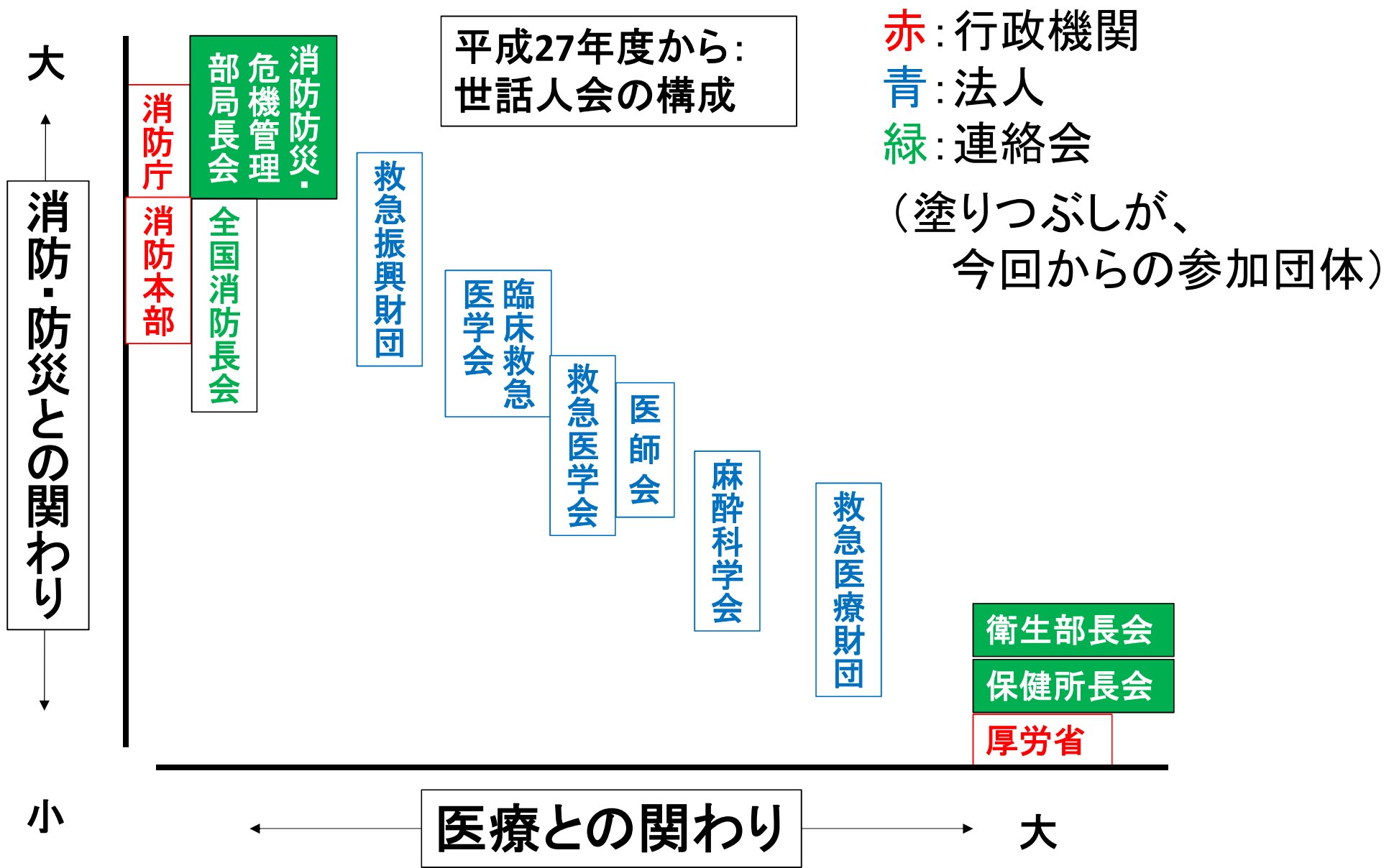
救急医療提供体制を構築する
場としての活用も期待

幹事会

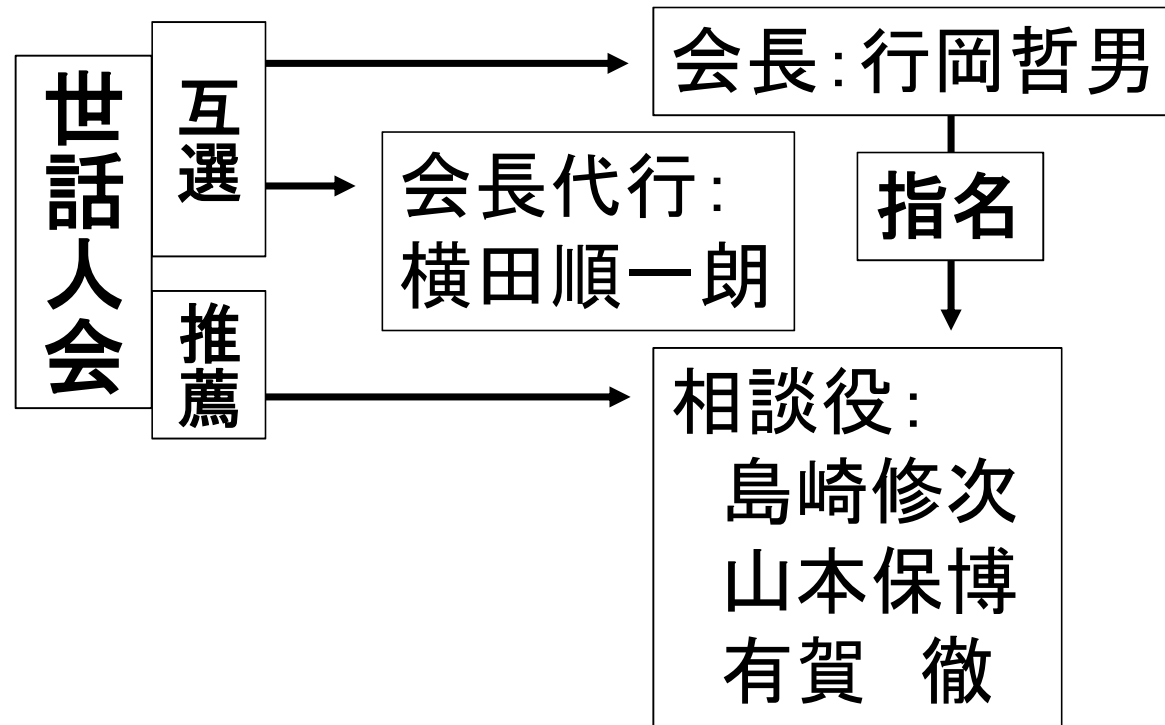
世話人会

学会・団体・消防機関
8団体が指定、その他
3団体合わせて10団体
の代表15名で構成

学会・団体・消防機関
13団体が指定され、
その代表16名で構成



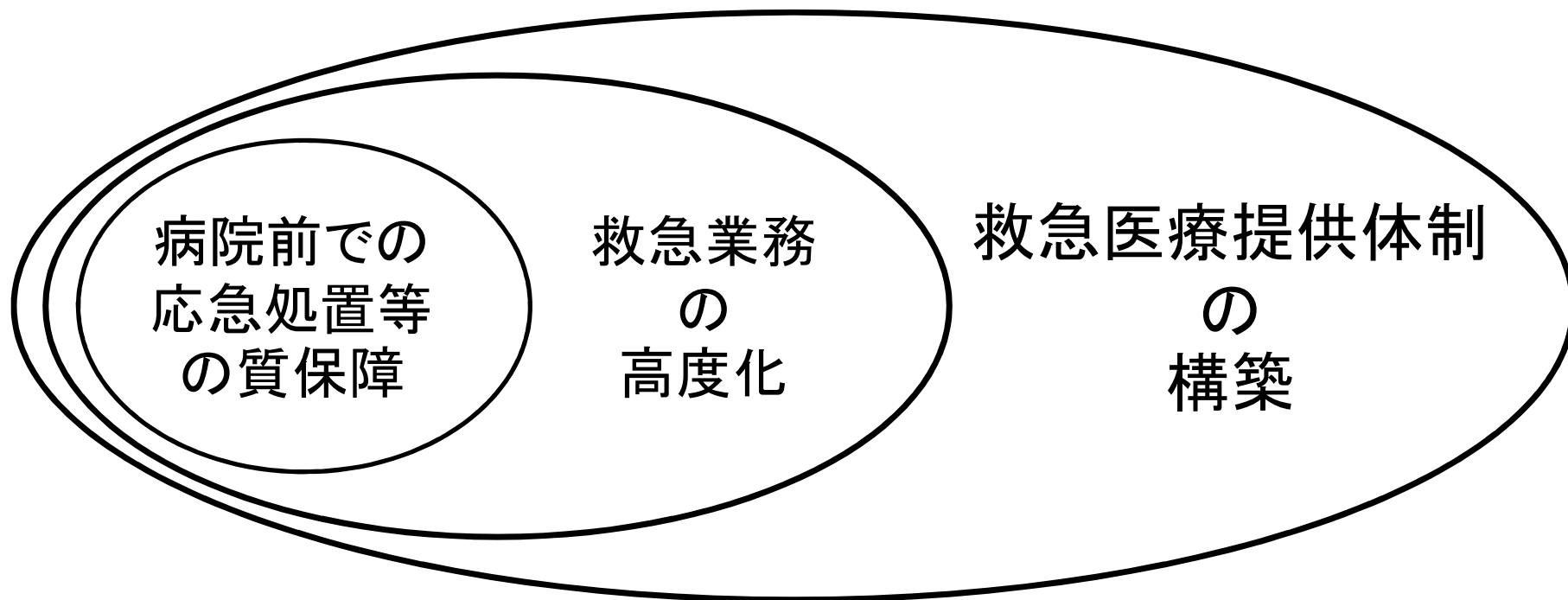
平成27年度より



全国MC協議会連絡会では、「**救急医療提供体制を構築する場**」という表現を開催要綱に盛り込み、多様な関連団体に参画を求めた。

その理由は？

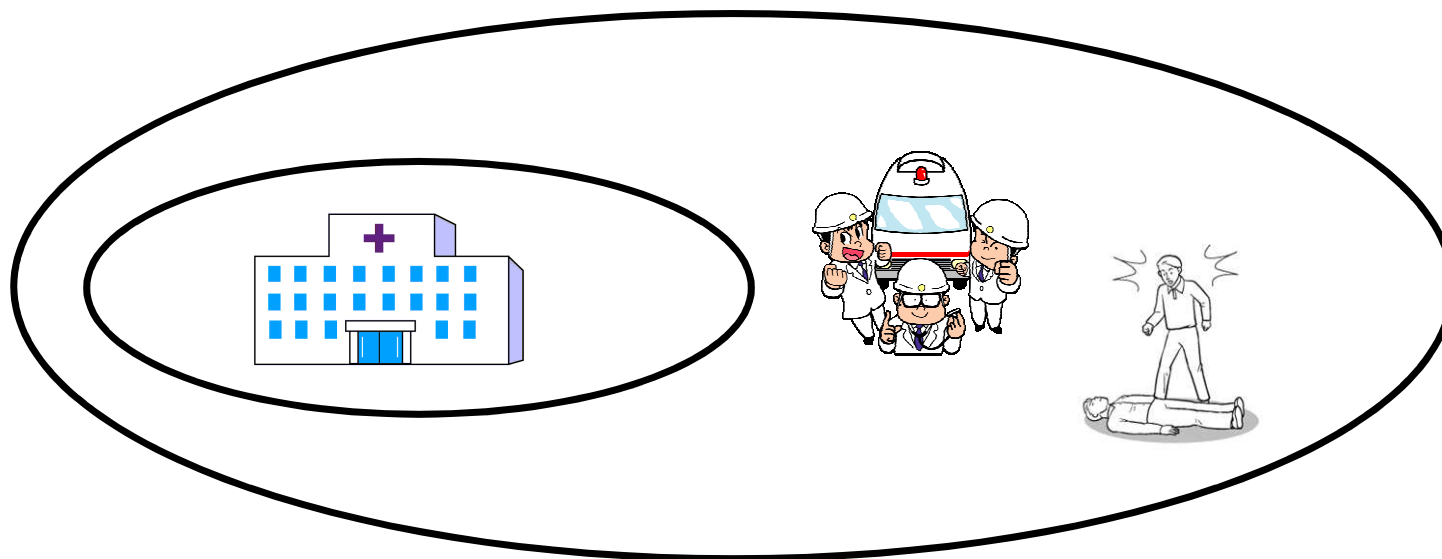
MC協議会が
担う役割・活動



MC協議会の役割や活動内容がより広げる、
社会的なニーズが存在するからである。

MCは、救急現場での応急処置等の
質の医学的保障を目指すこととして始まる。

従来は、医療者の行う医行為
は病院内で行うのが基本で
あった。



医療の場が、病院から地域へと広がる。

救急救命士制度により、医行為が救急の現場(=地域)で
実施されるようになる。

医療はシステム(チーム医療)
として展開されるようになる。

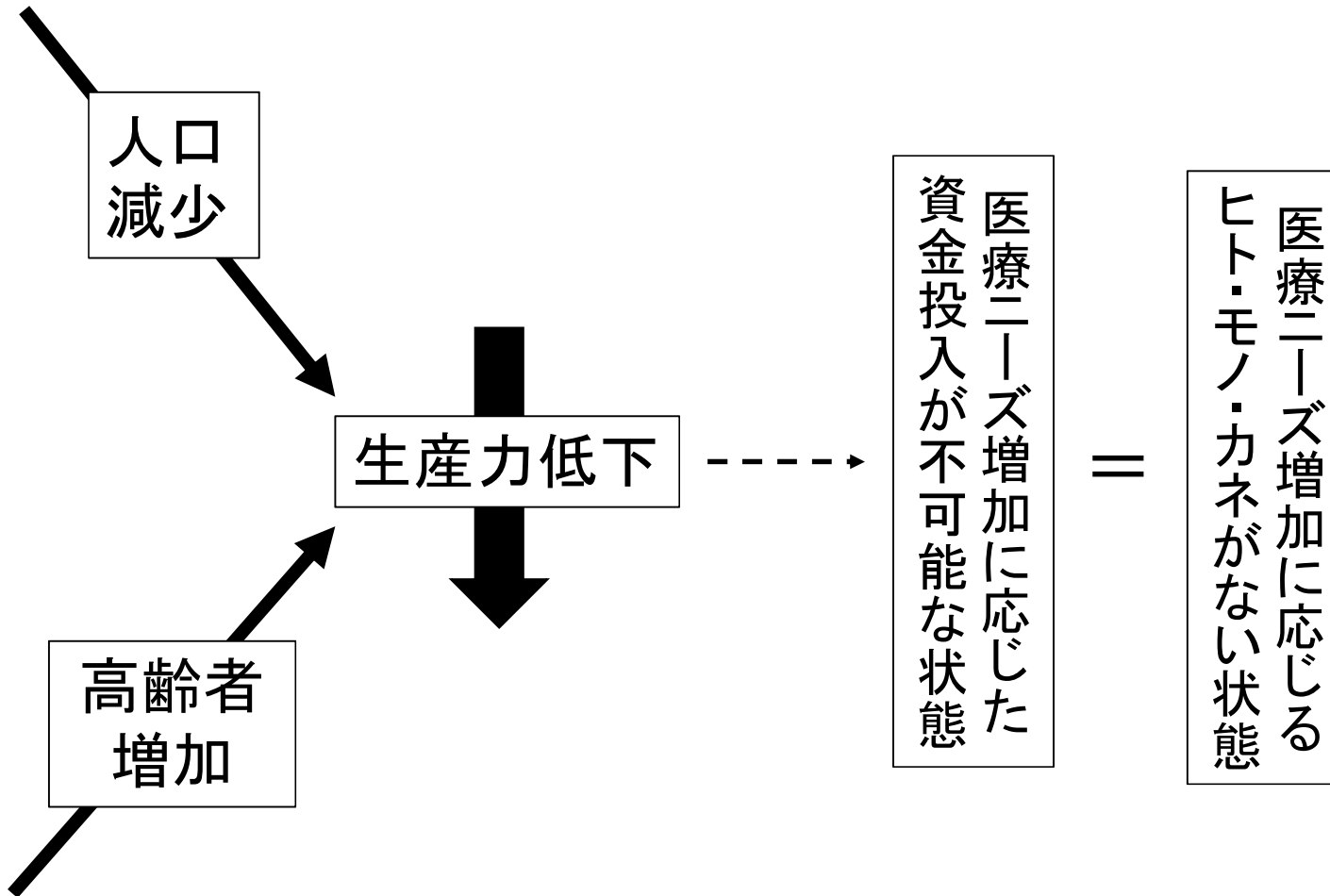
医療の場が、病院から地域へと広がる。

地域(=人々の日々の生活の場)へと
医療者が行う医行為が広がる。

医行為の実施やその質保障だけでなく、
これを支えるシステムとしての地域における
救急医療体制を組上げ(デザイン)し、
これを支える体制が必要となる。

**地域救急医療体制の充実・強化には、
諸機関・諸団体の連携のもと、
『地域の自主性や主体性に基づき、
地域の特性に応じて
作り上げていくことが必要』**

一方、21世紀前半の我が国では、



医療ニーズ増加に応じる
ヒト・モノ・カネがない状態

海外国内

医療を産業化し
海外に展開する。

既存資源の
効率的運用

地域にある病院や介護施設等々を
連携し一体化してケアを提供する

地域包括ケア

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。**

地域包括ケアシステムの姿



**『地域の自主性や主体性に基づき、
地域の特性に応じて
作り上げていくことが必要』**



地域救急医療体制の充実・強化には、

諸機関・諸団体の連携のもと、

『地域の自主性や主体性に基づき、

地域の特性に応じて

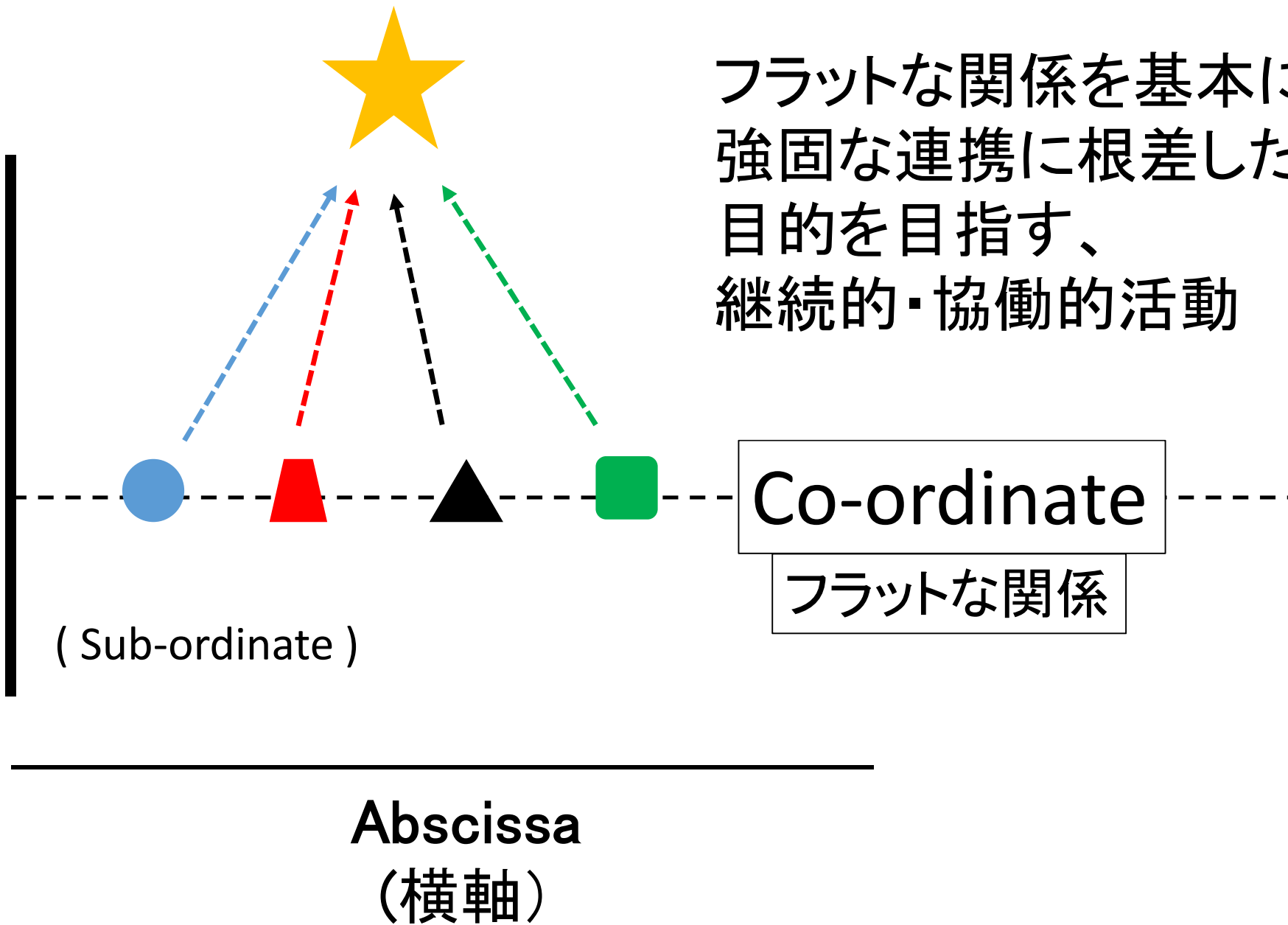
作り上げていくことが必要』

MC協議会の目的である。MC協議会やその連絡会は、地域包括ケアに代表される社会のニーズを踏まえ、これに沿った活動が今後より一層重要になる。

**地域の自主性や主体性に基づき、
地域の特性に応じて
地域救急医療体制を充実・強化するには、
広範な諸機関・諸団体の連携が必須。**

**これが社会のニーズに答え得る
唯一選択し得る方策と思われる。**

(縦軸)
Ordinate



開催要綱

(MC協議会連絡会は)

MC体制に関する課題を整理し、自己評価および他MC協議会から学ぶことができるよう情報共有及び提言の場

自己評価や他MC協議会から学ぶには、
全国のMC協議会の中での自らの立ち位置の把握
(自己認識)も必要となる。

全国MC協議会連絡会は、より多くの関係団体に参画をもとめ、新たな一步を踏み出した。これは、社会構造の大きな変化を背景に、救急医療のニーズが変様しつつあることと深く関わる。

MC協議会連絡会が救急医療提供体制の構築に貢献し得る場であるためには、関係する個々人はもとより諸団体が目指す目標に対しフラットな関係を保ち、継続的・協働的な活動の展開が必要である。

関係各位のご協力を切に願います。